

いのち 生命の力が輝く時 ～最終回～

※プライバシー保護のため、事実と少し変えています。

やりたいことがあるから変わろうとする子どもがいる。
どうにかしたいから、今できることから始める子どもがいる。
一方で、ひたすら眠り続けて壊れそうな自分を守る子どもがいる。
今の自分を認める子どもは、必ず生命の力を発揮する…。

■休むだけでエネルギーがいる

不登校をしていた中学3年生のアカネさんの話です。お母さんに「今日は、学校はどうするの？」と聞かれた時に、「今日は学校を休もうと思う。」と伝えました。「その言葉を言うのに、体中のエネルギーの全部を使った。その言葉を言うのが全てだった。」と教えてくれました。

学校を休むと親ががっかりする、はっきりした理由もなく学校を休むのはいけない、高

校受験の為にはできるだけ登校しなくてはいけない、ここで休むとそのままいけなくなりそう、でも教室でまた陰口を言われるかも…など不安と心配がうずまいたことでしょう。

毎日のように学校に行くか休むかを、朝早くからベッドの中で考えたそうです。そして、ついに「無理」となったのです。

多くの子どもたちは、「学校に行くか休むか」をアカネさんのように考えたり悩んだりはしません。少しは考えるかもしれません

第65回不登校・ひきこもりを考えるシンポジウム

ひきこもりと社会的自立

講演

「今を生きる」に徹する
～当事者の立場でとらえる自立～

加嶋文哉さん

■2018年7月15日(日)
13:00～16:30

■大分市ホルトホール 202会議室

■参加費 会員 無料 一般 1,000円

■定員 55名

■問い合わせ 衛藤 (090-7392-2206)

シンポジウム

社会的自立のための
「支援」とは何か

池辺清源さん

障がいや病気のある青年の支援者で、そのまなざしはあたたかい。ひきこもり相談支援専門員、メンタルケア心理士、社会福祉主事等の資格を有する。

<主催> 星の会

古豊慶彦さん

不登校・ひきこもりの経験者で、当事者が創る情報誌「今日も私は生きてます。」の編集代表者。親の会たんぼとフリースペース長崎のスタッフ。長崎市在住。

<後援> 大分県教育委員会・大分合同新聞社

加嶋文哉さん

教育・不登校研究所「明日(あした)が見える」所長。不登校を考える親の会「星の会」代表。

このチラシは六月の会報を送る時(六月二十八日)に同封します。

が、少なくとも「休む」という言葉を口にするのに、体中のエネルギーを使うことはありません。

中には「毎日の部活が楽しいから学校に行っている」という子どもや、「教室でみんなと一緒に過ごすのが楽しいから学校に行っている」という子どももいます。

ですから、ほとんどの子どもが登校するのは、強いからでも頑張っているからでもないのです。学校に行くことが「好き」「ふつう」「それほど嫌ではない」のです。アカネさんのように心のエネルギーをギリギリまで使うことはありません。

■心のエネルギーを見る

しかし、学校に行くことが「とっても嫌でしかたない」子どもは、行くかどうかを考えるだけでエネルギーがなくなってきました。実際に身体を起こすだけでも大変です。制服を着たり、食事をするのも疲れます。登校する時間が迫ってくるとお腹が痛くなり、トイレに30分程入ります。エネルギーがからっぽに近いのでダラダラしているように見えるのは当然のことです。ある意味、動物としては正常な反応と言えます。

不登校の子どもに対して「頑張る力が足りない」とか「集団への適応力がない」とか「自己肯定感がない」とか「親が簡単に休ませるから子どもが…」などと言う人は、不登校の子どもの心のエネルギーが見えていない人です。

■義務教育ではないから行く

アカネさんは、その後高校に何とか進学し、

今では楽しく登校をしています。「お母さん、中学の時とぜんぜん違う。朝ご飯が美味しい」と言ったそうです。でも、勉強の方は苦戦しています。特に前から苦手だった英語が分からないと言います。毎日のように出される課題にとっても苦労しています。

アカネさんは「頑張る力」がついたのでしょうか。「集団への適応力」がついたのでしょうか。「自己肯定感」が高まったのでしょうか。そもそも、そんなに人間は「頑張る力」「集団への適応力」「自己肯定感」はついたりするのでしょうか。中学の時のアカネさんとそれほど変わってはいません。「親が休ませることを簡単に許さない」ようになったわけでもありません。

では、なぜ高校生活を楽しめるようになったのか…。

お母さんは、高校受験をするアカネさんに「高校は義務教育ではないから無理をしないでなくても良いのよ。」と言いました。アカネさんは「お母さん、何言ってるの。義務教育じゃないから行くんじゃないの。」とさらりと答えました。その言葉から、苦しい時間の中で「自分はどうしたいのか」を問い返しながら自己決定したことが分かります。

生命(いのち)の力は、周りの「まなざし」に縛られるのではなく、「内なる自分」に支えられて「～したい」を見つけることで輝きます。

余談ですが、お母さんは「またいつ行かなくなるか心配です。でも、その時に考えます。今から先手を打つことなどできないので…」と話していました。

寄付のお礼 匿名様より、切手のご寄付がありました。ありがとうございました。

7月の例会予定

- 昼の大分例会…7月7日(土)13:00～16:30
- 別府例会…7月7日(土)19:00～21:00
- 豊後大野例会…7月12日(木)19:00～21:30
- 津久見例会…7月13日(金)19:30～22:00
- 夜の大分例会…7月20日(金)19:00～21:30
- 湯布院例会…7月26日(木)19:30～21:30

会報発送作業

- 日時: 6月28日(木)14:00～
- 場所: 明治明野公民館和室
- お尋ねは河野さん (080-5272-9360) まで

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。